

JCOP症例検討会

日時

2023年4月23日(日)13:00~16:30

会場

ZOOM (オンライン開催)

* 事前申込制 4/20締切

取得単位

日本精神神経学会精神科専門医B群 2単位

* 3単位(申請中)→2単位へ変更になりました

参加費

会員医師:3,000円 非会員医師:4,000円 医師以外:2,000円

症例Ⅰ

多彩な病状を呈した広汎性発達障害の 診断・治療について

前久保 邦昭 先生 (前久保クリニック 院長)

約30年の治療経過中、てんかん、統合失調症、気分障害(うつ病、双極性気分障害Ⅱ型、気分変調症)、解離性障害、統合失調感情障害、広汎性発達障害など多彩な診断のもと対応した症例を報告する。全般経過を通し、学校、家族、彼氏など人間関係ストレスの内容と強さに応じて病状の種類やその程度が変化した。ベースに成育歴や広汎性発達障害の問題があると思われるが、当症例の基底にある問題を浮き彫りにし、時代の変遷とともに変化する診断やその社会的背景についても検討を加え、今後の治療に役立てたい。

症例Ⅱ

ありきたりな社会適応を目指し、改めて 障がい受容の段階を踏んでいる20代青年 ～social communication disorderの概念～

加藤 高裕 先生 (浜松町メンタルクリニック 院長)

近年、発達障害の過剰・過小診断が見受けられるが、果たして神経発達症のカテゴリーの分類とはどのような意義があり、どのようなことが今後は変遷していくのであろうか。治療者が「広汎性発達障害」から、「自閉症スペクトラム障害」と呼称と概念を変えていくにあたり、診断はむしろ狭小化した印象があり、「広汎性発達障害」のほうが日本語としてしっくりくるかもしれない。この差異を埋めるために「グレーゾーン」という便利な言葉があるが、果たして何を指しているのか。また、ある程度の高等教育を受けたとされる人が、何に困難感をもつのか、そしてsocial communication disorderという概念がどのような人々に適応されるのであろうか、成育過程と治療の段階を踏まえて考察していきたい。

お申込は裏面をご覧ください

このオンライン研究会は、参加者ご自身のパソコンでご参加いただけます。
パソコン以外のデバイスをご利用の場合、講師が画面上に示す資料が十分に見られない場合がありますのでご了承ください。

お申込方法

右の二次元コードをカメラで読み込むと入力フォームが開きます。
URLは「<https://forms.gle/RQ6S24WHq4XYksv78>」です。
必要事項を入力してお申込みください。



お申込後の流れ



- 注1 ご案内メールは、お申込後1週間以内にお送りいたします。
注2 参加費は、クレジットカード払いまたはお振込をご利用いただけます。
注3 参加用URLメールは、4/21(金)までにお送りします。
注4 参加者への連絡はメールで行います。
info@jcop.xsrv.jp からのメールを受信できるように設定してください。
メールには資料などPDFファイルを添付することがあります。迷惑メールに振り分けられてしまう場合がありますので、届かない場合は迷惑メールフォルダをご確認ください。

ご案内

- 今後の感染状況や政府・東京都からの要請により、開催中止(延期)または一部内容を変更する場合があります。最新情報は 学会ホームページでお知らせしますので、ご確認ください。
- 参加状況の確認のため、ビデオをオンにしてご参加ください。
- プログラムにはグループワーク、全体討論があります。マイクが利用可能な環境でご受講ください。
- 参加者による録画、録音、撮影はすべてお断りいたします。
- 資料の SNS 投稿などもお控えいただきますようお願いいたします。

【お問合せ先】

日本外来臨床精神医学会 事務局

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-14-8 ニシザワビル6階

TEL/FAX: 03-5289-7290 / Mail: info@jcop.xsrv.jp / HP: <http://jcop.xsrv.jp/>



学会HPはこちら